



“アリアの楽器は女人好みだね。”とよく耳にする。この言葉はわれわれアリアには嬉しくもあり、また少し残念な気もする。われわれが誇りとするテクノロジーやクラフツマンシップが、プロミュージシャンや専門家に評価されるほど光栄なことはいか、やっぱりもともと多くのギターキッズにその良さを理解してもらいたから。“SOUND & PLAYABILITY”われわれがギターづくりをするときにいちばん大切にすること。アリアプロIIにしる。エレコードにしる。数あるモデルそれぞれのミュージカルパーパスこそ異って、このテーマは、永遠に、共通だ。

アーティストのナマの声を反映

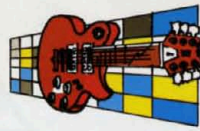
アリアを弾くプロミュージシャンは数多い。渡辺香津美、ニール・ショーン、マーカス・ミラー、バズ・フェイトン etc.etc.。彼らのうちの多くは自分でアリアを購入したのが発端となってエンドースメントに発展している。契約金は、なし。われわれが彼らのファンであるのと同時に、彼らもアリアのファンであるから。ともあれ、彼らアーティストはわれわれの貴重な情報源だ。例えばPE-R50。渡辺香津美のインスピレーションからあのラミネイトボディが生まれたし、“CLASSIC POWER”ハムバッカーも香津美の試奏テストによりスペックが決定された。PE-60の2層ラミネイトボディにしてもニール・ショーンのアドバイスをヒントになったのだ。とうように、プロの極限に近い条件をもクリアするアリア、信頼に足るインストゥルメントだ。



渡辺香津美 ニール・ショーン マーカス・ミラー

先進のギター・テクノロジー

アリアプロIIのロゴタイプに付く“the advanced electrics.”が象徴するように、アリアは高い技術力を誇りしている。electricsとはエレクトリックギターのこと。何もエレクトロニクスに限らない。例えばヒールレスカッタウェイ、アッパー・ポジションでの演奏性を飛躍的に高めるこのフィニッシュは、しっかりとした設計と、秀れた木加工技術なしには実現不可能だ。



RSサーキットやBBサーキット。発表後数年を経た今もなお最先端を行く究極のエレクトロニクスだ。エレコードにしても然り。時代の寵児ニューセラミック技術が生んだELECORD™ビックアップ。FE-Tシリーズの単板アーチトップキアフィストブリッジ。エアコアの将来は方向づけられた。

常識を超えたコストパフォーマンス

音楽やってアフロロのあったかい奴って少ない。何故だかわからないから、でも、大切にしたい。ハングリー精神。アリアは財布の軽い愛すべきギターキッズに理解を示そう。コストパフォーマンスには絶対の自信がある。その秘密は?と聞かれても答に困る。別に何の秘密もあはしないからだ。いって言うにすればわれわれの熱意とワールド・ブランドとしての誇りをあげようか。品質は折紙つきだ。アリアのギターはすべて第一級のマテリアル、第一級のファクトリー、第一級のクラフツマンシップからつくり出される。私たちは楽器づくりのプロフェッショナル。そこに妥協はない。



世界中で愛用されるアリア

マーカス・ミラーはニューヨークで、ジャック・ブルースやジョン・テイラーはロンドンで、アリアを買った。これら音楽の源流地以外にアリアの拠点は世界中に拡がっている。国別ではU.S.A.、カナダ、フランス、イギリス、西ドイツ、スイス、オランダ、……と実に14ヶ国を数える。キミの腕が上達して、ロサンゼルスやロンドンでレコーディング、ということにも、向こうでメンテナンスやサービスが受けられる。ワールド・ワイド・ブランドならではの大きな強みだ。

